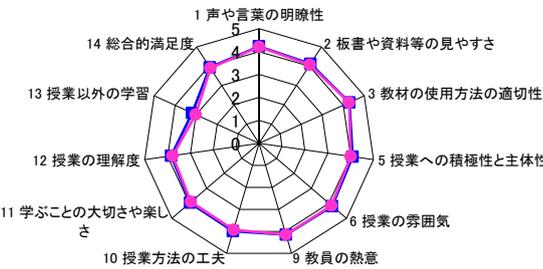


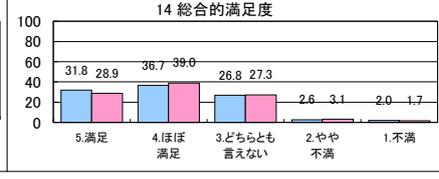
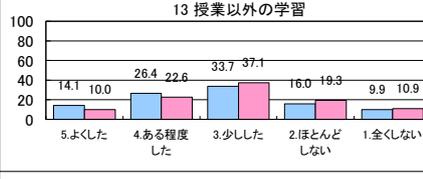
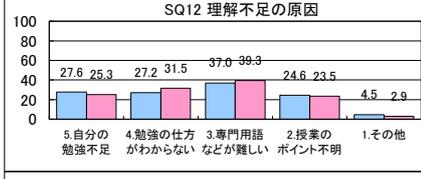
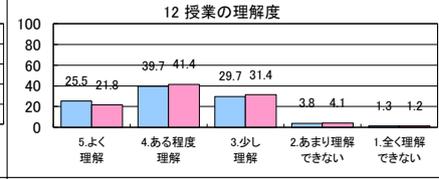
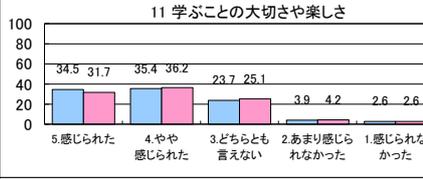
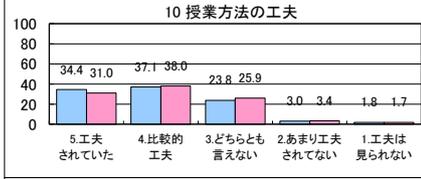
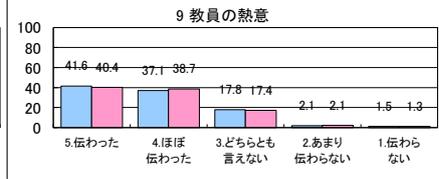
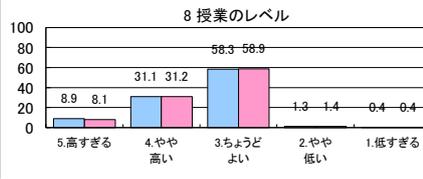
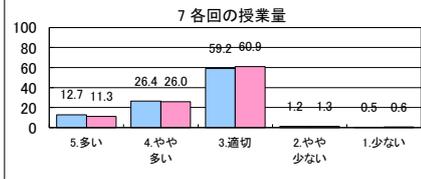
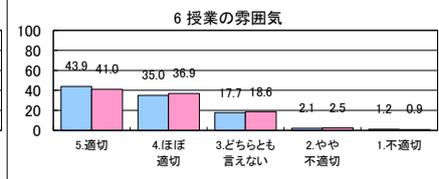
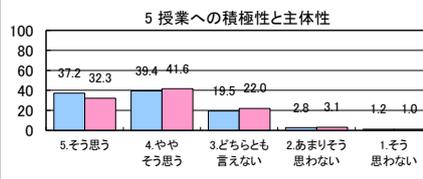
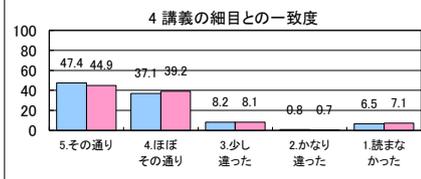
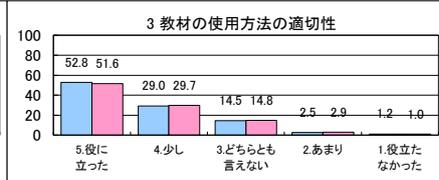
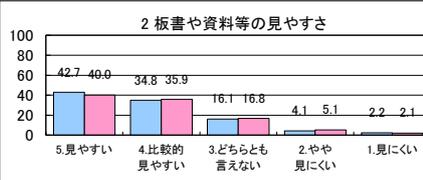
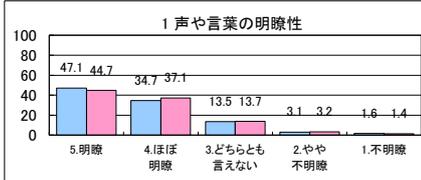
集計区分	総合計	開講曜日		回答者	29,172			
担当教員		開講時間		回答率	76.3%			
履修者数	38,245	開講場所		回答5	13,703			
				回答4	10,113			
				回答3	3,937			
				回答2	896			
				回答1	471			
				前回平均	4.21			
				平均	4.23			
				無効回答	52			
1 声や言葉の明瞭性	13,703	10,113	3,937	896	471	4.21	4.23	52
2 板書や資料等の見やすさ	12,406	10,099	4,685	1,196	635	4.07	4.12	151
3 教材の使用方法的適切性	15,288	8,398	4,197	738	338	4.28	4.30	213
4 講義の細目との一致度	13,728	10,727	2,378	242	1,875	3.14	3.18	222
5 授業への積極性と主体性	10,799	11,419	5,654	800	346	4.01	4.09	154
6 授業の雰囲気	12,729	10,151	5,127	622	334	4.15	4.18	209
7 各回の授業量	3,683	7,672	17,194	344	149	3.46	3.50	130
8 授業のレベル	2,577	9,015	16,918	388	119	3.45	3.47	155
9 教員の熱意	12,065	10,754	5,174	596	426	4.15	4.15	157
10 授業方法の工夫	9,942	10,713	6,890	854	512	3.93	3.99	261
11 学ぶことの大切さや楽しさ	9,981	10,232	6,845	1,115	764	3.90	3.95	235
12 授業の理解度	7,315	11,399	8,535	1,086	387	3.78	3.84	450
SQ12 理解不足の原因	771	758	1,032	686	125	-	-	-
13 授業以外の学習	3,991	7,493	9,557	4,526	2,801	3.02	3.19	804
14 総合的満足度	8,377	9,672	7,045	688	537	3.90	3.94	2,853
SQ14 不満者の改善意見	624	496	801	274	160	-	-	-
15 各教員別質問事項1	434	528	616	154	77	-	-	27,363
16 各教員別質問事項2	369	358	358	109	68	-	-	27,910
17 各教員別質問事項3	240	206	222	81	51	-	-	28,372

各項目の平均値のグラフ
ただし
4 講義の細目との一致度
7 各回の授業量
8 授業のレベル
SQ12 理解不足の原因
SQ14 不満者の改善意見
15~17 各教員別質問事項
の8項目は、数値の意味が他の項目と異なるので、除外してある。

グラフについて
青系:今回
ピンク系:前回



説明:
・平均は、項目4以外は、回答1~5の回答数にそれぞれ1~5を加重した平均値である。
・項目4のみは、回答1の質の違いを考慮して、回答2~5の回答数にそれぞれ1~4を加重した平均値である。
・項目7,8は回答3が最適値である。



平成 30 年度後期 授業改善アンケートの概要

[I]はじめに

授業改善を目的として、平成 30 年 12 月 11 日（火）～平成 31 年 1 月 18 日（金）にわたって、学生による「授業改善アンケート」を原則として後期に開講される全科目で実施しました。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（*1）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライド、手本や見本は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	06. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	07. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	08. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	09. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	10. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	05. あなたはこの授業に積極的な姿勢で臨み、主体的に学びましたか
④受講結果の評価	13. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
	11. あなたはこの授業を通して、学ぶことの大切さや楽しさ（面白さ）を感じられましたか
	12. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	14. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

集計区分	総合計	回答5		回答4		回答3		回答2		回答1		平均	前回平均
担当教員		開講曜日											
履修者数	38,245	開講時限											
		開講場所											
		回答者	29,172										
		回答率	76.3%										
1 声や言葉の明瞭性	5.明瞭	13,703	4.ほぼ明瞭	10,113	3.どちらとも言えない	3,937	2.やや不明瞭	896	1.不明瞭	471	4.23	4.21	
2 板書や資料等の見やすさ	5.見やすい	12,406	4.比較的見やすい	10,099	3.どちらとも言えない	4,685	2.やや見にくい	1,196	1.見にくい	635	4.12	4.07	
3 教材の使用法の適切性	5.役に立った	15,288	4.少し	8,398	3.どちらとも言えない	4,197	2.あまり	738	1.役立たなかった	338	4.30	4.28	
4 講義の細目との一致度	5.その通り	13,728	4.ほぼその通り	10,727	3.少し違った	2,378	2.かなり違った	242	1.読まなかった	1,875	—	—	
5 授業への積極性と主体性	5.そう思う	10,799	4.ややそう思う	11,419	3.どちらとも言えない	5,654	2.あまりそう思わない	800	1.そう思わない	346	4.09	4.01	
6 授業の雰囲気	5.適切	12,729	4.ほぼ適切	10,151	3.どちらとも言えない	5,127	2.やや不適切	622	1.不適切	334	4.18	4.15	
7 各回の授業量	5.多い	3,683	4.やや多い	7,672	3.適切	17,194	2.やや少ない	344	1.少ない	149	—	—	
8 授業のレベル	5.高すぎる	2,577	4.やや高い	9,015	3.ちょうどよい	16,918	2.やや低い	388	1.低すぎる	119	—	—	
9 教員の熱意	5.伝わった	12,065	4.ほぼ伝わった	10,754	3.どちらとも言えない	5,174	2.あまり伝わらない	596	1.伝わらない	426	4.15	4.15	
10 授業方法の工夫	5.工夫されていた	9,942	4.比較的工夫	10,713	3.どちらとも言えない	6,890	2.あまり工夫されてない	854	1.工夫は見られない	512	3.99	3.93	
11 学ぶことの大切さや楽しさ	5.感じられた	9,981	4.やや感じられた	10,232	3.どちらとも言えない	6,845	2.あまり感じられなかった	1,115	1.感じられなかった	764	3.95	3.90	
12 授業の理解度	5.よく理解	7,315	4.ある程度理解	11,399	3.少し理解	8,535	2.あまり理解できない	1,086	1.全く理解できない	387	3.84	3.78	
SQ12 理解不足の原因	5.自分の勉強不足	771	4.勉強の仕方がわからない	758	3.専門用語などが難しい	1,032	2.授業のポイント不明	686	1.その他	125	—	—	
13 授業以外の学習	5.よくした	3,991	4.ある程度した	7,493	3.少しした	9,557	2.ほとんどしない	4,526	1.全くしない	2,801	3.19	3.02	
14 総合的満足度	5.満足	8,377	4.ほぼ満足	9,672	3.どちらとも言えない	7,045	2.やや不満	688	1.不満	537	3.94	3.90	
SQ14 不満者の改善意見	5.学習の仕方等の指導法	624	4.各回の授業量/レベル	496	3.板書の仕方/話し方など	801	2.配布資料などの教材	274	1.その他	160	—	—	

*1：問 04・問 07・問 08 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしておりません。

[Ⅱ]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。その上で、学科などで議論した結果、次のような対応策（アクションプラン）と学生への要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

- ・これまでと同様、「8. 授業のレベル」に対しては、「やや高い」と「ちょうどよい」と回答する学生の割合が多い。質の高い授業内容を維持するため、教員は、学生が感じるより、やや高めの授業レベルを目指している。今後も現在の授業レベルを維持していきたいと考えている。授業の内容を易しくすると学生の評価が上がる場合があるが、授業のレベルは下げず授業のレベルは維持したまま、学生の理解度が高くなるように教員は努める。

【学生への要望】

- ・今回はわずかであるが、前回に引き続き「13. 授業以外の学習」が改善していることは積極的に評価したい。学生には、引き続き授業以外の学習を促していきたい。授業内容に対する理解を自ら積極的に進めてもらいたい。

自然環境学科

【学科の対応】

- ・千住：今回新たな科目も入っているので比較はできないが、前回（平成 29 年度後期）とほぼ同じ結果であった。
「授業以外の学習」で前期と比較すると、前回・今回とも後期の方が低い値であり、後期の科目においても課題を課す努力をする必要がある。
- ・東京西：今回新たな科目も入っているので比較はできないが、前回（平成 29 年度後期）を上回っている項目が多くあった。また、「授業以外の学習」で前期と比較すると同程度であった。また「授業以外の学習」を前回と比較すると、東京西全体としては増加しているのに対して、自然環境は逆に減少しており、千住同様に課題を課す努力をする必要がある。
- ・前期の結果を千住と東京西を比較するとほぼ同じ結果であったが、今回（後期）の結果は、「授業以外の学習」や「総合的満足度」など多くの項目で東京西の方が高かった。また前回も同様の結果であった。今後この要因を受講者数との関係性などから調べる必要がある。

【学生への要望】

- ・授業以外の学習を与えられた課題だけでなく、予習・復習を含めてしっかりして欲しい。
- ・疑問に思ったり理解できなかったりした点はそのままにしておくのではなく、授業の後やオフィスアワーを使って質問して欲しい。

アニマルサイエンス学科

千住キャンパス

【学科の対応】

- ・寄せられた意見の学科内での共有、問題点の分析、課題の抽出が必要である。現状ではそこまでの対応は出来ていない。
- ・看護福祉コース（千住）は 1 学年が 150 名であり、他学科と比べると個別の対応が困難である。CAP 制の本格導入を控えている現状から、e ラーニングなど、学生の予習や復習などの自習をサポートするシステムの導入を検討すべきである。
- ・意見に対して学生と向き合い、対話をすべきである。

【学生への要望】

- ・シラバスを確認して、到達目標を理解して授業に臨んでほしい。
- ・掲示板を確認するなど、学生生活のルールを守ってほしい。
- ・せめて復習だけでも行って授業に臨んでほしい。

東京西キャンパス

【学科の対応】

- ・授業改善アンケートの結果をキャンパス毎の会議でとりあげ、全体的な傾向について共有します。
- ・個々の教員の授業改善の取り組み事例について共有し、全体的な向上を目指します。
- ・個々の教員のアンケート結果から読み取れる学年ごとの傾向について意見を交換し、今後の講義に活かします。

【学生への要望】

- ・授業アンケートの回答で、すべて同じ数字にマークするなど、不自然な回答が時々見られます。せっかく実施しているアンケートですので、授業の改善につながるように誠実に回答してください。また自由記述欄も積極的に活用してください。

【その他】

<学生の自由記述（具体的な提案や意見）への回答>

学生の意見：アニマルサイエンス実習を一まとめにして評価するのは難しいと思う。

回答：現在のアニマルサイエンス実習の設定については課題点があることを教員も認識しており、今後、改善も検討していきます。

学生の意見：実習の課題の負担が大きすぎる。

回答：負担感は個人差もあると思われませんが、過度に負担がないか、教員間で情報を共有し意見交換します。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

- ・前回のアンケート結果と比較すると、学科平均で「授業への積極性と主体性」は4.01と維持されていたが、それ以外の13項目において向上がみられた。特に「学ぶことの大切さや楽しさ」は0.12ポイント、「授業の理解度」は0.1ポイント上昇した。各教員の継続的な授業運営の努力が反映されたと考えられる。
- ・「授業以外の学習」を促すための振り返りとしての小テスト、小人数のグループワークを中心とした授業、多数教員によるオムニバス授業、実技系授業における複数教員の同時配置など、個別対応を意識した学生への介入などは継続して実施していく。

【学生への要望】

①授業への出席について

- ・必ず出席するようにしましょう。1回だけなら欠席しても大丈夫などの考えは危険です。講義では教員の実際の臨床での経験など、教科書に書かれていない重要なことが話されます。また、実技は教科書を読んだだけで習得するのが困難なことはご承知の通りと思います。万が一、体調不良などで欠席をする場合には必ず科目担当教員へ連絡をしてください。

②授業をよく理解するために

- ・授業時間中は講義に集中しましょう。あとで復習すればいいと考えるかもしれませんが、同じ内容を、授業時間後に独学で習得するためにどのくらいの時間を要するかを考えてみてください。膨大な時間がかかり、講義で習ったことと同じレベルを全て自己学習するのはまず難しいでしょう。目の前で行われている講義に集中して頭に入れてしまうことが、最も効果的で早道であることに気がつきましょう。
- ・講義時間内で集中できていれば、予習と復習はさらに容易になります。予習復習は机に向かってするものと考えていませんか？ 授業の合間の空き時間にラウンジで、移動の車内で、休み時間のほんの5分間で、資料やノートを見直しておくだけでも随分違います。記憶を呼び起こすという作業をこまめに繰り返すと、定着に繋がります。予習に関しても、教科書を読むだけでも効果は得られます。ぜひ習慣化するように工夫してください。

作業療法学科

【学科の対応】

- ・今回のアンケート結果において、5「授業への積極性と主体性」、7「各回の授業量」の回答率の平均が若干、前回よりポイントが下がっている。5については、症例やケーススタディなど通して授業に対して興味を持ってもらう、また動機付けをする。他の項目についてはポイントが上がっており、引き続き授業改善への取り組みをする。
- ・4「講義細目との一致度」について、少し違った、また読まなかったという学生もいるため、一致させる事、講義の最初にシラバスを読むようにする。
- ・SQ12「理解不足の原因」の項目の勉強の仕方が分からない、という意見が25%あるためそれについては何らか

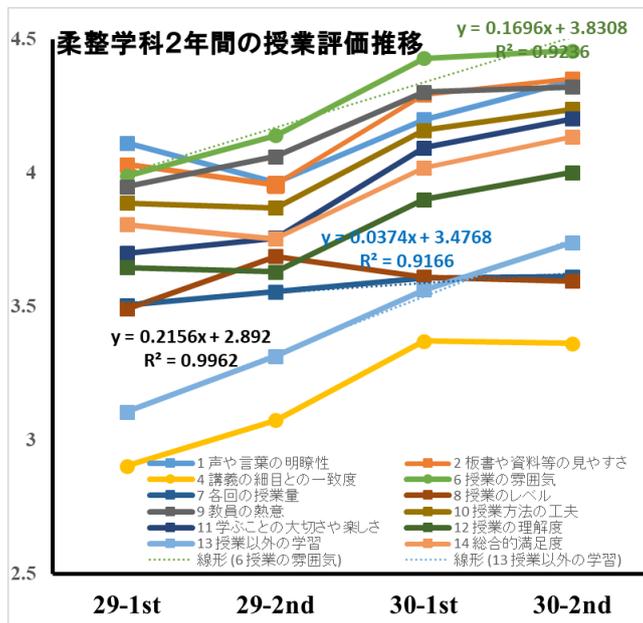
の対応を検討する必要がある。

【学生への要望】

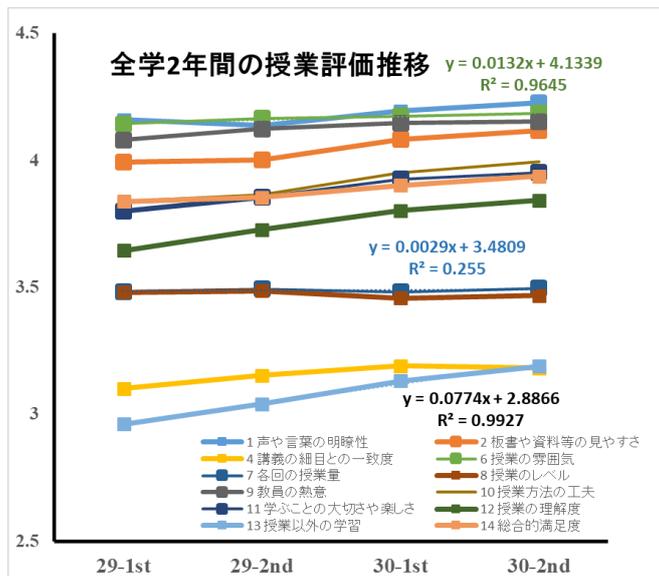
- ・予習、復習をしっかりしてほしい。

柔道整復学科

【今回の結果】



V. S



【学科の対応】

- ・30-1st→30-2nd間の教員の教育効果が頭打ちになっていることから、これまで各教員が実施してきた小テストや助言別グループワークに加えて、特に授業評価が低い「講義細目一致性の回復」、「授業量」と「授業レベル」のバランスを再考する必要がある。

【学生への要望】

- ・国家試験のレベルが上昇し、本年度からは新国家試験改訂の最初の年であるので、4年生に限らず引き締めた気持ちで臨む姿勢をもつこと。

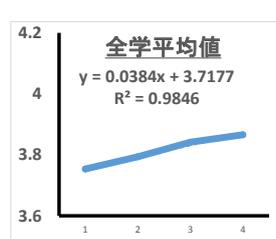
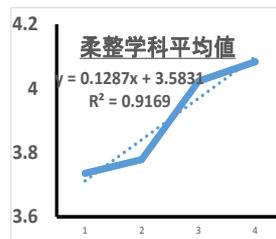
しかしながら、国家試験や卒業試験は日々の講義内容や実習内容を理解しこなしていれば確実に合格するレ

【検討する授業評価】

柔整学科の授業評価値

1) 全体的な傾向：

No.1 (声や言語の明瞭性) および No.13 (授業以外の学習) を除いて、ほとんどの項目で値の上昇傾向は継続するが、今回 (30-2nd) の平均値は前回 (30-1st) に比して微増であり、ほとんどの項目で前回との間で有意差 (<0.05) は出現しない。しかしながら、この微増傾向も 29-1st と 29-2nd の上昇率よりは増加する。また、左図全学の平均値と比較すると、ほとんどの項目で全学よりは有意に上昇する。(下図は全体の平均値の推移を表す)：30-1st→30-2nd間の教員の教育効果が頭打ちになっている。(特に講義細目一致)



2) 特徴的な傾向：

上記に比し、連続的な上昇性を示すもの：No.13 薄青色 (■ 授業以外の学習) 値は 29-1st 以来連続した上昇を示し、今回の平均値も前回 (30-1st) より優位に上昇し、29-1st 以来の上昇性も極めて直線に近く (漸近線： $Y=0.2156X+2.8$, $R^2=0.996$)、さらに 29-1st 以来の各値はすべて前後の値に比して有意差を示した ($p<0.05$)。：これまで(29-1st~30-1st)の上昇度は No.6(授業の雰囲気)や No.4(講義項目との一致)とともに No.13(授業以外学習)も上昇したが、30-1st~30-2nd間は No.12(授業の理解), No.11(学びの楽しさ)との関連性が高く、それによって No.14(総合的満足度)も上昇していったと考えられる。：根拠は各漸近線の重相関係数の値による。(データは非表示)

ベルであるので、常に謙虚になってこのことを心がけること。特に講義→自己学習→質問→理解という構図を忘れると講義進度に追いついてこれられない。君たちが日ごろ努力している学問の実践（大学での講義，自己学習や研究）は、諸君を必ずしや人間として成長させる。このなかでも自己学習あらずして学問は成り立たない。自己ノートを書くことで講義中の内容を整理し、自分が不得意とするものを見つけ出し（特に国家試験対策）、このこと自身が自分と向き合っていくことにつながる。

- ・最近耳にする「もう無理です」という言葉は自己学習のなさを物語っており、自己の大人としての成長をあきらめるものである。諸君のことを一身に考えている教員がいることを忘れない（君たちはいろいろな先生からいろいろなことを聞いて成長するものである）。「無理です」という言葉は認めない。「無理です」という以前に自己努力を怠ってはいけない。

東京理学療法学科

【学科の対応】

東京理学療法学科では、臨床能力向上や国家試験合格を目標とする知識や技術の定着を図るため、必修科目の多くの科目に複数教員を配置しております。

H30年度後期科目では、「学生からの総合満足度」に関する項目で昨年度と比較して、わずかに低下（3.87から3.67）しております。大学全体の総合計（3.94）と比較してもわずかに低下しております。

各項目の比較に対する留意する点は、「項目7：各回の授業量」が3.64から3.71、「項目8：授業のレベル」が3.63から3.70とほぼ同水準の数値となっており、一定の講義内容が担保されていると考えられます。また、「項目1：声や言葉の明瞭性」が4.15から3.90、「項目3：教材の使用方法的適切性」が4.12から4.23と高水準には保たれているものの、「項目12：授業の理解度」が3.65から3.54と低下し、学科教員による講義内の理解度に繋がるさらなる工夫が必要であると考えております。

学科として重要視している「項目12：授業以外の学習」も前回の3.10から3.13となり、変わらず低水準を推移しており、今後、講義外における実技練習や課題の取り組みなど提示できるように考えております。学科の教育体制は現在の方向性を維持しながら、専門職教育上の質を向上させる取り組みを検討していきます。

- ・項目1, 3, 6の「学生からの評価に関する項目」は、前回よりもやや低下が認められますが、「3」点台に前回と比較すると低下しています。項目7「各回の授業量」、項目8「授業のレベル」は、ちょうど良い、適切との評価が得られていることから、学科全体として、現状の教示レベルを維持や改善を図るよういたします。
- ・項目4「講義の細目との一致度」は、3.17から2.90と若干の低下を認めており、依然として低い傾向を示すため、今後、シラバス作成を含めた授業内容の整理を図りたいと考えております。
- ・項目SQ11「理解不足の原因」について、「勉強の仕方が分からない」「専門用語などが難しい」が半数を占め、それぞれ増加していることから、学習習慣や基礎的理解が難しいことが示唆されます。今後、授業内での専門用語解説や、下位学年教育における学習方法指導などをより充実させることを検討していきます。
- ・項目12「授業以外の学習」が低水準であるが、授業内の小テストや課題など授業外の学習習慣が形成できるような取り組みを計画したいと検討していきます。この取り組みを継続する上で、授業外学習を希望する学生から「実習室に人が多すぎて実施できない」という声も聞こえてきており、対応を検討していきます。
- ・小人数のグループ制による能動的な授業参加や複数教員によるオムニバス授業、実技系授業における複数名の専任教員の配置などを実現し、多面的な学生への介入を継続し実施していきます。

【学生への要望】

①授業への出席について

- ・日々の授業は、教員の臨床経験などを含み教科書に書かれていない重要な内容も教示されます。特に、理学療法技術（実技）は教科書を読むだけで習得することは困難です。実技系授業は理学療法に必須となる技術（実技）のポイントを中心に教示するので、授業には必ず出席してください。

②授業をより理解するための学習方法について

- ・「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」があり、「授業の理解度」の不十分な学生が見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、資料を用いた予習・復習など積極的に自己学習に取り組める環境を整えて下さい。
- ・「理解不足の原因」を抱える多くの学生には「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」と伺うことがあります。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに相談し、まずは、勉強の仕方を身に付けてください。
- ・シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

③課題提出について

- ・課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。

④授業外学習について

- ・休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。少しずつ相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

東京柔道整復学科

【学科の対応】

- ・授業時間以外の学習方法として、課題を与える、オフィスアワーのように対応可能な教員を明示して指導をする。
- ・アンケートに書かれた自由記述欄の情報を共有し、適切な指摘で教員側が改善すべきことであるのか、学生側の努力で解決すべき問題であるのかを検討して反映する。
- ・学生自身が相談に来る時期は手遅れとなっていることが多いため、早期に相談・対応をとれるようにする必要がある。

【学生への要望】

- ・国家試験に向けた意識を持って授業を4年間受けて欲しい。
- ・授業の復習を必ず行うこと。
- ・助言制度を利用して勉強方法についての相談をすること。
- ・「板書の文字が小さい」とのコメントがあったが、教室の前の方に着席しないで後方に座っている。黒板いっぱい縦で4〜5行しか書いていないので、自ら前の席に来るなど、学生側にも努力する姿勢がほしい。
- ・コメント欄への記入を積極的にお願したい。
- ・学生自身が的確に授業の満足度、達成度、努力度の総括をして欲しい。
- ・アンケート内容の殆どは学生が予習・復習をしっかりとやることにより改善されるので、先生への要望ばかりしないで、自身の予習・復習をしっかりとやって授業に臨むこと。

看護学科

【学科の対応】

- ・「声や言葉の明瞭性；平均値 4.26」「板書や資料の見やすさ；平均値 4.19」「教材の使用方法的適切性；平均値 4.34」「授業の理解度；平均値 3.94」の項目に関し、それらの看護学科平均値は前回アンケート結果と比較し上昇している。また、学生は、授業の理解不足の原因として、「専門用語などが難しい」「勉強の仕方がわからない」「授業のポイントが不明」「配布資料が観づらい」などの理由を挙げている。

《対応策》

- ① 毎回の講義開始時に、講義目的や到達目標について学生にアナウンスする。
- ② 学生にとって理解・活用しやすい語彙を用いながらイメージしやすい例も挙げつつ授業を行う。
- ③ 復習や定期試験対策、臨床実習、看護師国家試験対策でも活用しやすい資料作成の必要性について、共通認識する。資料の内容について、同学科教員より意見をもらう。
- ④ 単位認定試験 60 点未満の学生に対し、補講を可能な限り実施したうえで再試験を受験させる。

・「授業の雰囲気；平均値 4.24」や「教員の熱意；平均値 4.21」の項目に関しては、看護学科前回アンケート結果よりも平均値は上昇している。しかし、自由回答の内容から、教員による威圧的・否定的な言動によって学習意欲が低下する旨の意見もある。教員の言動自体が学生の自己効力感の高低に少なからず影響を及ぼしている点について否めない。

《対応策》

- ① 「自分にもできる、自分にもできた」という成功体験を学生自身が感じられるよう、達成可能な目標を講義・演習に取り込むなど、学生が遂行行動の達成感を味わえる授業案を前もって立案する。
- ② 「あなたならできる」「すばらしい」など、褒めたり励ます言葉によって言語的説得を行うよう心掛け、可能な限り激励し続ける。

・「授業への積極性と主体性；平均値 4.26」の項目で、看護学科前回アンケート結果よりも平均値は上昇している。

《対応策》

- ① 更なる授業への主体性を高めるために、教員と学生、学生同士のディスカッションによる課題探求型授業を今まで以上に展開し、学生自らが他の人々と連携しながら課題解決につなげられるよう、看護学科教員がアクティブ・ラーニングを可能な限り取り入れる。
- ② 学生に対し、授業内容に関連した看護師国家試験過去問題の解答とその解説を授業中に行い、国家試験対策を早期に行う必要性について認識させる。

・「各回の授業量；平均値 3.53」「授業のレベル；平均値 3.48」と他の質問項目よりも平均値が低い結果であり、“授業量がやや多い”“授業のレベルがやや高い”の回答を選択した学生の存在が目立つ。そのため、それらの質問項目の平均値を下げている。看護学科の授業における焦眉の課題は、授業には出席しているものの、積極的に授業に参加し自主的に学び取り組む姿勢が弱い点にある。学生への授業への参加が単位修得を目的とした形式的な学びに終始し、看護師として身に付けるべき知識・技術・態度の獲得に向けた学びに転換できていないことが考えられる。これらの課題の背景には、主体性を引き出すための工夫や予習・復習を促す双方向型の指導、基礎学力を補完する取り組みが不足しているものと思われる。そして、教員は、学生個々をもつ基礎学力に顕著な差があることにより質を伴う授業運営が難しいほか、学生個々の理解度に合わせたきめ細やかな学習指導が困難な状況に置かれている。

《対応策》

- ① 単位認定試験 60 点未満の学生に対し、可能な限り補講を実施したうえで、再試験を受験させる。
- ② 前回授業の復習テストを可能な限り実施し、成績に反映させる。
- ③ 授業の開始時に、「授業中の私語は厳禁であること」「居眠りの禁止」「スマートホンの私用の禁止」について学生に伝え(学生便覧でも謳われている)、その協力を得る。
- ④ 2019 年度看護学科 FD 研修内容として、学生が主体性ある学習行動をより実践できるよう、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の向上を目指すための教員研修を開催する。

・「総合的満足度；平均値 3.99」について、看護学科前回アンケート結果よりも平均値は上昇している。今後において、前記の対応策を実施し、学生および教員が達成感のある講義・演習につなげていく。

【学生への要望】

・予習や復習の習慣を身につけてもらいたい。そして、その努力をしていただきたい。単位認定のためだけの学習ではなく、より良いケアを提供するための基礎学習の機会である点についてしっかりと認識していただきたい。

い。

- ・授業に集中できるよう心身の自己コントロールをしっかりと行っていただきたい。
- ・アルバイトが本業ではない点について、しっかり認識していただきたい。
- ・学生自身が、保護者とともに成績も含めて学生生活について話し合ってもらいたい。
- ・4年間の大学生活で何を修得すべきなのかについて自己洞察していただきたい。

医療福祉学科

【学科の対応】

授業姿勢や学習効果に対する認識も学年毎の相違も見られ評価も変わりました。特に変化が見られたのは、「授業以外の学習への意識」です。シラバスに予習・復習内容が明記され学習目標が明確になったことに加え、国家試験や就職活動を控える4年生の存在によって、1年生から3年生の学習への適度な緊張感に繋がり良い刺激となっているのかもしれませんが。「授業以外の学習への意識」の評価は、大学全体 3.02→3.19、千住キャンパス 3.01→3.21、医療福祉学科 3.01→3.45 と向上しました。今後もさらに学生の学習意欲の向上につながるよう努めたいと考えます。また、全体的に評価が向上しており喜ばしいことですが、「講義の細目との一致度」については、「2」から向上しないので、シラバス内容等の一致した授業の実施に努めると同時に、変更がある場合は、必ず学生に変更予告するよう、改善したいと思います。またこれらの効果を実感することで、授業改善アンケートを実施する効果を確認できました。

【学生への要望】

- ・国家試験を受験するための教科が多いなか、正確な知識が求められるため、教科書を購入し、受講して下さい。予習・復習でも教科書に書かれた内容を読み取る、理解することが大切です。
- ・自分の付きたい職業など、将来像に向けて目標を持ち、自分の学習計画を立て学んでいきましょう。
- ・社会・地域・医療福祉は、憲法を初め、各関係法令を基盤としています。日頃から関連法令集を読み、学習していきましょう。
- ・法律の改正も含め、社会事象や社会問題など、新聞や本を読む習慣をつけ洞察力や探究心を持ちましょう。
- ・地域交流をとおして活動計画・地域社会への関心・協働での取組み・社会人としてのマナーが醸成され同時に、福祉職としての実践力が培われていきます。主体的に学んでいきましょう。

●教育人間科学部

こども学科

【学科の対応】

昨年度後期の結果と比較して、14項目中12項目で肯定的な回答が増加し、その他2項目についても、概ね昨年度後期の数値を維持しています。授業の総合的満足度については、昨年度 4.17 から今年度 4.29 へ向上しました。全体データから、学科として所属教員に周知すべきことは以下の点であると考えます。

- ・《不満者の改善意見》(記入者：昨年度 48 人、今年度 43 人) については、昨年度、学科の改善課題とした「板書の仕方」については、昨年度 45.8%→今年度 25.6%と改善が見られた一方で、「学習の仕方」については昨年度 45.8%→今年度 53.8%、「各回の授業量/レベル」については、昨年度 12.5%→今年度 17.9%と増加しています。引き続き、学びを定着させるための助言まで含めた講義を行うとともに、リフレクションシートの実施、提出など、学生個々の学びの状況をモニタリングし、形成的に授業改善ができる講義を行うよう、各教員は留意する必要があります。
- ・上記に関連して、授業の《理解不足の原因》の原因として、「自分の勉強不足」「勉強の仕方が分からない」が挙げられます(2項目の合計で 55.3%)。授業外学習の大切さについて、学生に随時伝えていくとともに、引き続き、その日の授業の「何が大切で、何を特に学ぶべきなのか」というポイントを学生がつかめるよう、授業の導入場面での工夫、内容の視覚化などを、具体的な改善策として続けていく必要があります。

【学生への要望】

- ・《授業以外の学習》(復習)については、「よくした」「ある程度した」の回答の割合が、昨年度後期から大きく増加しました(38.5%→45.1%)。授業内での学びの成果を定着させるために、引き続き復習に取り組んでください。また、保育、教育、福祉の現場に出て、大学で学んだことと照らし合わせてみることも有効です。教員から随時、ボランティア活動等のアナウンスをします。時間の許す範囲で活動に取り組んでみてください。
- ・座席自由の科目では、前方席の学生の方が、後方席の学生より成績が良い結果が出ています。前の方が授業内容に集中できること、また、教員との対話も生じやすいです。座席自由の授業で、後方に着席している学生は、ぜひ、前方席に着席してください。

幼児保育学科

【学科の対応】

- ・一人一人の学生について学修状況や指導の方針を共有している。
- ・授業細目の一致を心がける。
- ・授業改善研究に学科全体で取り組む。
- ・学生指導に一貫性をもたせること(例えば、学生の受講態度)を学科全体で検討する。
- ・アンケートの中で、13番の授業時間外の準備についての回答が本学科でも課題だと捉えており、予習・復習の在り方を学生の実態に合わせて、小テストの実施や先を見通した課題設定の在り方を検討していく必要があると考える。
- ・授業以外の学習を増やすべく毎回課題を実施したが、学生からは毎回課題が出るのは嫌だと不評であった。

【学生への要望】

- ・資格取得の意欲を再確認してください。
- ・自ら学ぶ姿勢を身につけてほしい(予習、復習、探究など)。
- ・授業以外でも学習することが当たり前だということを認識してもらいたい。
- ・授業前に受講に必要な準備をするようにしてほしいと思います。
- ・一人一人の意識がよりよい学修環境や学科をつくることにつながることを認識してほしい。
- ・もっと本を読んでほしい。主体性、判断力をつけるためには必須であるという認識を持ってほしい。ネットでは、これらの力の養成は難しい。
- ・学びの基本であるテキストを読む、学びの振り返りをする習慣の定着が欠かせない。毎日の生活リズムがアルバイト中心になっている学生、睡眠不足の状態です。1限目が始まる学生の生活改善をしないかぎり学びに集中できない。
- ・授業への関心・意欲・態度が著しく低い人がみられます。特に教科書・持参するように指示した材料・道具を毎回持ってこないなど反省の意識もほとんどないのは困ります。

学校教育学科

【学科の対応】

- ・千住キャンパス全体の結果と比較して相対的に平均値が高く、教員の授業への取り組みや熱意が学生に伝わった部分があるのだと考える。特に、「5 授業への積極性と主体性(+0.12)」「11 学ぶことの大切さや楽しさ(+0.12)」「12 授業の理解度(+0.17)」の数値が目立って高い。授業に対する学生の満足度が高いことは、教育に係る学科の取り組みとして大いに評価されるべきである。一方で、「3 教材の使用方法的適切性(-0.04)」の平均値がキャンパス平均よりも低くなっている点は、原因追究、及び改善の余地がある。
- ・回答3が「どちらとも言えない」の項目(1~3、5、6、9~11、14)全てにおいて、「どちらとも言えない」との評価が減少し、「3. どちらとも言えない」よりも良い評価の合計(5プラス4)と最も良い評価(5)の割合が増加しています。とくに、「11 学ぶことの大切さや楽しさ」、「13 授業以外の学習」、「14 総合的満足度」

については、いずれも「5」と「4」の各割合が増加しています。それぞれが相互に影響しあって、後期において、授業や授業時間外での「学び」の大切さと喜びをより実感できるように成長してきているのではないかと期待しています。今後も、「学ぶよろこび」を学生たちが実感できるように、引き続き授業の進め方や授業に関連した課題の出し方などを工夫して、学生たちが「学び続ける教員」へと成長できるように支援していきたいと思います。

- ・教員としての熱意、責任感、協調性を高めるため、教職センターと連携した各校種での学校ボランティア・インターンシップ、夏期・春期の教職関連特別講座（教職アカデミー）、教員採用試験模試などを今後も積極的に企画・実施していきます。

【学生への要望】

- ・各項目において前回（前期）に比べ平均値が大幅に上がっている。学校教育学科1期生が3年になり、教育実習を目前にして大学での学びに真剣味が増したことも一つの要因だと考えられる。大学教職課程での学びは理論的なものも多いが、教育現場での実践の基礎・土台として必要な知識技術である。1、2年次にもインターンシップ等を活用し、教育現場での体験と大学での学びを結びつけながら、主体的に学んでほしい。
- ・授業の遅刻や欠席は、授業内容の理解の妨げになりやすいので、遅刻・欠席をしないように5分前行動や体調管理を心がけて下さい。
- ・授業で理解できなかったこと、疑問に思ったことは、積極的に担当の教員や関連する科目の教員に質問して下さい。
- ・授業をただ聞くだけでは自分の力になりません。「思い出す」ことが記憶の定着につながります。ノートの取り方を工夫し、授業後に授業内容を思い出しながらノートをまとめるなども効果的な学習方法です。その他、問題集に取り組むなど、自分にあった学習方法を早く見つけて下さい。

●総合教育センター

【総合教育センターの対応】

- ・前回と比較しても大きな変化はなく、今後も、質の高い授業を維持できるよう努める。

【学生への要望】

- ・復習・宿題をしっかりとやってほしい。配布された資料は授業終了後に自分で読み返して内容を確認、理解しておいてほしい。
- ・しっかりとノートをつける習慣をつけ、自力で良いノートが取れるようになってほしい。
- ・まずは静かに話を聞くという基本を守ってほしい。

●医学教育センター

【医学教育センターの対応】

<各回の授業量、授業レベルについて>

医学教育センター教員の担当科目は、授業量、授業レベルともに、全体的に高い傾向にある。各科目の特性の違い（特に国家試験の有無など）を考慮するならば、これらはアンケート結果によって簡単に左右されるべきものではないため、その裁量は各教員に任せることとする。

<声や言葉の明瞭性、板書や資料等の見やすさ、講義細目との一致度、教員の熱意>

これらの項目は、教員の意識により改善が容易であると考えられるため、センター会議で毎回センター長から注意を促すなど、教員の意識を徹底させる。

<教材の使用法の適切性、授業の雰囲気、授業方法の工夫>

これらは教員側でコントロールしていかなければならない項目である。改善させるためには、各教員個別の対策、対応が必要であり、一律にこうしたらいい、といった形の結論を出すことは難しい。教員は各分野の専門

家であり、その分野で長年、研究し、また実務に携わってきたことを考慮すれば、センター側から各教員の授業方法・内容への大幅な介入は困難であり、原則として教員各自に一任すべきである。そのため、各教員の自覚、真摯な努力が望まれるところであり、この点についてはセンター会議などでセンター長から注意を促したり、議題として頻繁に取り上げたりするなどの方策を取っていきたい。また、各教員が自らの授業方法を工夫するアイデアを得るために、他教員講義の聴講や授業方法の相談などを行っていく。

<項目全体として>

極端に低い点数が出た場合は、センター長が担当教員と相談して、必要があれば各学科に対応をお願いする等の対策を立てる。

【学生への要望】

<アンケートに関して>

このアンケートは本学における授業を改善するための重要な役割を担っており、それを十分に自覚して、公平な立場から真摯な回答をして下さい。つまり、感情的な理由からではなく、それぞれが学生を代表するという広い視野に立ち、各設問の意味をよく汲みとったうえで回答して欲しいということです。このため、低い点数をつけた場合には、今後教員が授業改善の参考とするため、必ずその理由を記述して下さい。

<学習に関して>

医学教育センターの教員の担当科目は、いずれも、皆さんが国家試験を受験し将来その国家資格を用いて仕事をするうえで助けになるものばかりです。すでにそれを理解して勉強をがんばっていると思いますが、これからも継続して勉強して下さい。最も重要なことは授業に必ず出席し、その中で一つでも多くのことを理解し、吸収していくことです。その場合、予習・復習を行えばさらに理解が深めることができます。

●教職センター

【教職センターの対応】

- ・全体的に学生からの評価が前回は上回っており、満足度は高かったといえる。来年度以降も引き続き学生のモチベーションを高められるような授業をめざす。
- ・「授業以外の学習」の項目が低い評価となっているが、各回の予習や復習、発表や模擬授業の準備などの必要性を再度説明する。ただし、教職課程は選択科目であるため、各学科必修科目等の負担にならないよう配慮していく必要がある。
- ・教職センターでは、正課の授業のほかに、教員採用試験対策を行っている。これまでは、これらの授業に対する学生の評価を実施していなかったが、教職センターの指導力向上のため、今後は検討していきたい。

【学生への要望】

- ・アンケート実施の際、学生自身も授業への取り組みについて振り返り、自身の学び方について考える機会としてほしい。
- ・授業について、教員の説明が不足していたり、わかりにくい内容があったりしたときは、その都度、担当教員に質問してほしい。

FD委員会では「授業改善アンケート」の改善を検討しています。ご協力をお願いします。